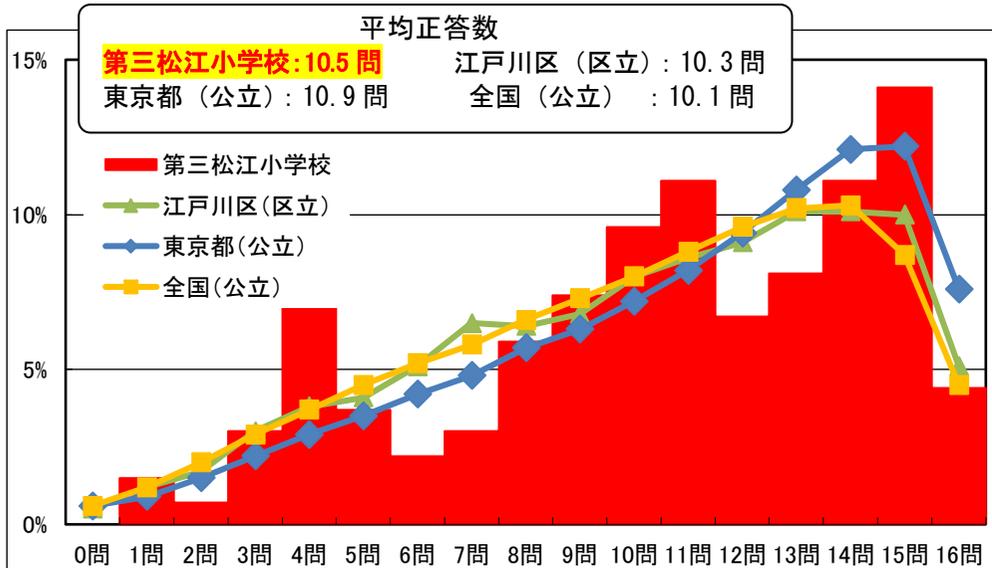


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 第三松江小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
第三松江小学校	29.6	14.8	34	21.5
江戸川区 (区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都 (公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国 (公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

【平均正答率の差】

第三松江小学校	66%
江戸川区 (区立)	64%
東京都 (公立)	68%
全国 (公立)	63.4%
都との差	-2ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

- ・C層が最も多い。境界値の児童が多い。
- ・「変化と関係」の領域が、都の平均を下回っているため、タブレットを用いて、4・5年の学習をもう一度復習することで6年の比例や比の学習の理解が深まるのではないかと考えた。
- ・「思考・判断・表現」に関しては、解いたことのないような問題でも、既習事項と結び付けて応用させる力を養う。そのために、授業の中で自力解決、集団検討の時間を設定し、自分の考えを説明したり、他者の考えと比較したりする経験を積みさせていく。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果

